

2022 年 5 月 19 日

阿南英明、今村顕史、岡部信彦、押谷仁、尾身茂、釜范敏、鈴木基、
館田一博、中島一敏、前田秀雄、脇田隆字、和田耕治
岡田賢司、谷口清州、多屋馨子、峯真人、森内浩幸

日常生活における屋外と、小児のマスク着用について

○インフルエンザなどの呼吸器感染症対策として、感染者が不織布製マスク（以下、マスク）を着用することで、咳・くしゃみなどの症状のある人や会話の際に飛沫やエアロゾルの発散を低減させることを目的として推奨された。また、限界はあるものの飛沫やエアロゾルを吸い込むことを予防する効果もある。

○新型コロナウイルス感染症では、発症前あるいは無症状の人からの感染対策が重要であることが明らかとなり、さらに感染力が高いことや感染した場合の影響が大きかったことから、症状の有無に関わらず公共の場や職場などでのマスク着用が呼びかけられてきた。

○ワクチン接種が進み、また病原性がより低いオミクロン株が流行株の多くを占めるようになりこれまでの対策を緩和すべきという社会的要請も高まってきている。しかし、オミクロン株の伝播力は、ウイルスの特性からも従来株よりも高いため、マスク着用を含めた基本的な感染対策は重要である。

○これまでも、人との距離が十分確保できれば、屋外でマスクの着用は必ずしも必要でない旨を示すとともに、特に気温、湿度が高い夏期には熱中症の予防の観点からも周りの人との距離が確保できる場所ではマスクを外すことを推奨してきた。（環境省・厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000798079.pdf> 令和 3 年 6 月）

○ここでは、日常生活において、空気の循環により感染リスクが室内に比べて低めとなる屋外でのマスク着用について改めて確認する。また、オミクロン株の感染拡大によって一時的にマスク着用の必要性が強化された小児におけるマスク着用について、考え方を整理する。

1. 屋外でのマスク着用について

○屋外で周囲の人と距離が十分に確保できる、または、家族のような一緒に過ごすことが多い間柄の人たちだけであればマスクの着用は、引き続き必要ではないと考えられる（例えば公園での散歩やランニング、自転車などの移動など）。

○屋外で周囲との距離が十分に確保できない場面でも、周囲で会話が少ない（又はほとんどない）ようであれば、これまでの考え方どおり、マスク着用は必ずしも必要ないと考えられる（例えば徒歩での移動において）。多数の人が利用する公共交通機関での通勤・通学については引き続きマスクを着用する。

○屋外であっても人混みや会話をするような場面がありえる際はマスクを持参して、会話の際には適宜マスクを着用する。また、屋内への訪問があればマスクを持参するようにし、屋内にてマスクを着用する。

○新型コロナウイルス感染症においてもおこりえる症状（鼻水、頭痛、喉の痛み、発熱、咳など）があれば、まず外出を控えていただくことが重要。しかし、こうした症状があっても日常生活での必要物品の買い物などやむを得ない外出をする場合は、屋外でもマスク着用は必要である。

2. 小児のマスク着用について

○オミクロン株の特徴が判明しない中で、小児の感染がこれまでよりも多く確認されていたことを踏まえ、2022 年2月の基本的対処方針の改定において、保育所、認定こども園等においては、2歳以上の未就学児についても、「発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童については、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨める。」(<https://corona.go.jp/emergency/>)とされた。

○しかしながら、オミクロン株の特徴も判明しつつあり、新型コロナウイルスへの対応が長期化する中で、マスク着用により、熱中症のリスクや、表情が見えにくくなることによる影響も懸念されており、従来の考え方（2歳以上の未就学児については、マスク着用を一律には求めず、無理に着用させない）に戻していくことを考慮する時期にあると考えられる。

○一方で、当面は、小児での感染例は続き得ることから、施設内で感染者がでている、または体調不良者が複数いる場合などには、一時的にマスク着用をすることは考えられるが、長期化しないようにする留意する必要がある。

○なお、2歳以上の未就学児以外にも、小学校などにおいて、これまでの考え方を明確化し、次のような対応が考えられる。

- ・熱中症リスクが高い場合には、登下校時にマスクを外すよう指導。ただし、十分な距離を確保し、会話を控えること、公共交通機関を利用する場合はマスクを着用すること等について指導することは必要。

- ・屋外の運動場やプールでの体育の授業や休憩時間における運動遊び（鬼ごっこなど密にならない外遊びなど）においてもマスクの着用は不要とする。その際、十分な身体的距離をとることや体調不良の者が参加しないように確認することなどは必要である。

以上